

——バルト3国の各チェルノブイリ被曝者団体代表を日本に招待——

「ヒバク」のグランド・ゼロで被ばく体験と現状を語り合う

《基金のなりたち》

エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシャ基金（所在地：東京都杉並区、スタッフ代表：吉田嘉清）は、1990年8月に元環境庁長官の故大石武一氏、病理学者で元東大教授の故草野信男氏ら18名の呼び掛けにより発足した、草の根の市民運動体です。1986年4月に起きたチェルノブイリ原発事故発生直後に、汚染除去作業のためにバルト3国から汚染地域に送り込まれて被曝した約2万人の事故処理作業員（リクヴィダートル）のためにささやかな支援活動を続けて参りました。

《基金の活動について》

これまで、被曝者の日本での検診、2万本の注射器や薬品などの医薬品支援を手始めに、被曝者のサナトリウム療養支援、広島（HICARE）・長崎（NASHIM）での医師研修のサポート、現地被曝者団体との交流・支援などを続けて参りました。この間に、白血病に苦しむ少女への緊急募金活動や、外務省に働きかけ外務省招請によるバルト3国の医師の広島・長崎での研修も実現させています。

《日本訪問に期待すること》

1. 日本の被曝者の経験について。特に、被曝者への社会的リハビリテーションと被曝者が社会に受け入れられるまでの過程について知りたい。
2. 被曝者に対する補償制度について。及び、被曝者に対する社会保障が整備されるまでの過程について。
3. チェルノブイリ原発事故処理作業員のためのリハビリテーションセンター構想実現への援助（助言、資料提供ほか）。
4. 広島・長崎とバルト諸国の市民の友好関係構築。その橋渡しとして。



ラトビア・チェルノブイリ協会会長のヴェルゼムニエクス氏。日本は初めて。

【日程】

10月24日（金）来日	チェルノブイリ支援者訪問、日本被団協との懇談
10月25日（土）広島 ～27日まで	平和公園・原爆資料館見学、広島副市長、HICARE訪問、被曝者 森下 弘氏、広島市民病院関係者との懇談、チェルノブイリ支援者らとの交流など
10月28日（火）長崎 ～30日まで	平和公園・原爆資料館見学、長崎市長、NASHIM 訪問、長崎原水禁表敬訪問、被曝者 谷口稜暉氏との懇談、高校生平和大使との懇談など

10月31日（金）東京 第五福竜丸展示館表敬訪問、見学など

11月2日（日）離日

【来日者プロフィール】

ヤーン・クリナル

（エストニア・チェルノブイリ協会理事、パルヌ・チェルノブイリ協会「ガンマ」会長）

1986年5月～1986年10月、チェルノブイリ原発事故後処理作業に従事し、被曝。その際、原子炉関連施設の屋根の上の清掃作業も数日間担当した。

党委員会書記（当時）を経、エストニア西部地域税・関税局の職務をこなす傍らエストニア・チェルノブイリ協会理事兼パルヌ・チェルノブイリ協会「ガンマ」会長（89年より）を務める。

91年、当基金の招待により広島で医療検査を受けるために来日経験あり。

アーノルズ・ヴェルゼムニエクス（ラトビア・チェルノブイリ協会会長）

1986年11月～1987年1月、政府委員会委員としてチェルノブイリへ赴任、被曝。

リガ市市民防衛委員会対放射線・化学部部長、国防省企画開発部を経、92年に退職。93年よりラトビア・チェルノブイリ協会会長に就任。今日に至る。

マリス・ソップス（ラトビア・チェルノブイリ協会副会長）

1986年9月～1986年12月、チェルノブイリ原発事故後処理作業に従事、被曝。

国営農場委員を経て、貿易会社を経営する傍ら96年よりラトビア・チェルノブイリ協会副会長に就任。今日に至る。

ゲディミナス・ヤンチャウスカス（リトアニア・チェルノブイリ運動議長）

1987年8月～1988年5月、チェルノブイリ原発事故後処理作業に従事、被曝。

リトアニア・チェルノブイリ運動には90年の発足当初から関わり、99年より運動に専念。同団体議長に就任。今日に至る。

2003年、04年に当基金の招待により来日し、原水禁世界大会(04年)にも出席した。

【問い合わせ先】

エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシャ基金

担 当：吉田・増田（携帯 090-8812-0575）

住 所：東京都杉並区西荻南 1-19-2

TEL/FAX：03-3334-9770

URL： <http://echf.hp.infoseek.co.jp/>

[広島・長崎] 江成（携帯 090-1542-7908）